

2024. 10. 10 幼稚園スポーツフェスティバル

今週、年少、年中、年長と毎日1学年ずつ行う各学年のスポーツフェスティバルが行われました。昨年度異動しきて、初めて幼稚園の運動会を経験し、各学年の種目が、子供たちの日々の遊びとつながっていたり、子供たちの意見が取り入れられていたりして、なんて素晴らしい行事なのだろうと思いましたが、今年度も3日間ともとても感動しました。

昨年度のFacebookで、年中さんの肉食恐竜と草食恐竜チームに分かれてのリレー（しかも当日なりたいチームに並ぶ）、大きな段ボールの火山の中への玉入れ（火山なので爆発して入れた玉が外に出されるので、また入れる、が数回繰り返される）の種目を紹介したので、今年度も年中さんを紹介します。

今年度の年中さんには、「新幹線リレー」と「なりきり追いかけてっこ」という種目がありました。

「新幹線リレー」は、大、中、小の3つの新幹線それぞれに駅があり、新幹線を駅から向こうの駅に引っ張っていくという折り返しリレーでした。大きな新幹線は重いのに、駅と駅の間は長く、小さな新幹線は、駅と駅の間が短くなっています。子供達は大、中、小、どの駅に並んでもよく、リレーの間に他の駅への移動は自由です。大きな新幹線は人気で、たくさんの子供達が駅に並び、重い新幹線を長い距離引っ張って進みます。小さな新幹線はそれほど人気がないのですが、駅に並ぶ子が少ないので、すぐに引っ張る番がきて、新幹線を引っ張って走るようになります。先生が「小さい新幹線の駅の次の人がいないな」と言うと、大や中の新幹線の駅に並んでいた子の何人かが走ってきてくれて、どの駅も一度も新幹線リレーが途切れることはありませんでした。

今年度の年中さんは、新幹線作りが好きな子が多く、春から牛乳パックでいろいろな新幹線を作っていましたが、ある時、人がまたがって乗れるほどの大きな新幹線作りが始まりました。乗ったらつぶれそうになるのを頑丈にしていきながら、作っている子に、乗りたい子が、「乗りたい!」「乗ってもいい?」と言いながら乗せてもらっている姿が見られました。その大きな新幹線を生かしてスポーツフェスティバルの種目が生まれました。

もう一つの「なりきり追いかけてっこ」は、子供たちが、自分達で作ったお面やベルトマントなどを身に着けてなりきたいものになって走り、保護者は、お子さんのなりきっているキャラクターや生き物等の絵とお子さんの名前が書いてあるうちわを持って追いかけて走る、というものです（担任の先生から保護者には、「推し活」です、と説明があり笑いを誘っていました）。スタート地点は、保護者より子供達の方が少し前にしてあり、子供達は追いつかれずにゴールしようと一生懸命に走り、保護者はうちわを持ってお子さんを追いかけたり追いついて手をつないでゴールしたりと、とても微笑ましい時間でした。

何かになりきりたい、という遊びも、春から年中のクラスでよく見られた遊びで、マントやベルト、腕に付けるもの、お面や耳、髪飾りなど、いろいろな物を作り、それを付けて幼

稚園のいろいろなところで遊んでいる姿が見られました。それが運動会の種目につながりました。

「運動遊びに親しみ、体を動かすことが好きになる」「友達と一緒に楽しむ」等のねらいのもと行われている本園の1週間の運動ウィーク。その一環として行われる各学年の運動会（スポーツフェスティバル）。昨年度は、「運動会」という名前でしたが、今年度から「スポーツフェスティバル」という名前に変えました。昨年度、「運動会」という言葉からイメージされる内容とは違うのではないかという話が出て、運動ウィークのねらいを考えながら、スポーツフェスティバルという名前にすることになりました。どの学年も体を動かす楽しさを、自分も、友達と一緒に、そしてお家の人とも一緒に味わうことができる時間となっていたと思います。

運動ウィーク最終日に行われた年長さんのスポーツフェスティバルは、子供達がスポーツフェスティバルでやりたいと考えた種目をするに加えて、幼稚園の伝統の鼓隊にチャレンジし、一人一役をもち、開閉会式、種目と種目の間にあるアナウンス等の役割も立派に果たしていました。閉会式で、園長先生や育友会長さんから金メダルを渡される時には、どの子も本当に嬉しそうな表情で、幼稚園の最高学年として、スポーツフェスティバルで力を出し切って頑張っていたからだと感じました。

学年ごとに運動会を設定していることで、学年に合った種目をでき、子供達に待ち時間がないというメリットはあるものの、複数のお子さんが在園している保護者は何度も園に来ていただかないといけない、スポーツフェスタをほぼ学年の先生だけで運営しないといけない、スポーツフェスティバルが続く3日間は毎日先生方が準備・片付けをする必要があるといった大変さがあります。どのような形でどうあるとよいのか、また、来年に向けて考えて行きたいと思います。



